みやぎの市町村レビュー

本吉町

1．位置・面積

本吉町は、宮城県の北東沿岸部に位置し、仙台市からの距離は115km程度、面積は106.70km²（県内36市町村中17位：合併した自治体の計数は旧市町村の合計値、以下同じ。）となっています。

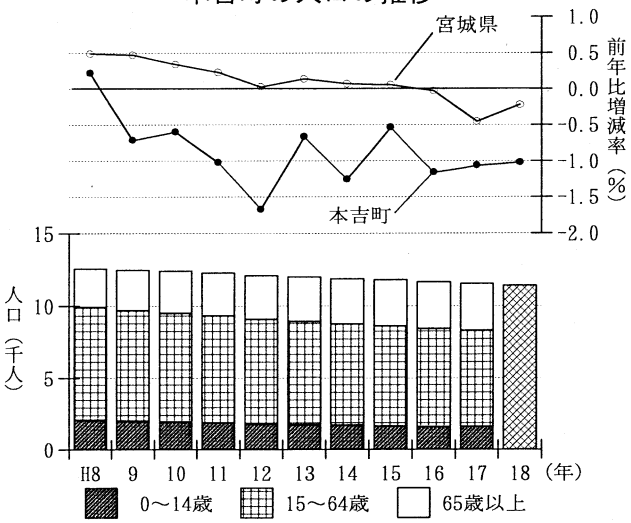
2．人口動向

本吉町の人口（平成18年）は、11,426人であり、県内36市町村中30位となっています。

平成8年以降の人口の推移をみると、減少傾向で推移しています。

また、平成17年（11,544人）における年齢階層別人口をみると、年少人口（0～14歳）が1,594人（構成比：13.8%）、生産年齢人口（15～64歳）が6,704人（同58.1%）、老年人口（65歳以上）が3,246人（同28.1%）となっています。

本吉町の人口の推移



注）各年10月1日現在。
資料：総務省「国勢調査報告」、宮城県「宮城県推計人口」

3．産業構造

本吉町の町内総生産額（平成16年度）は222億円であり、県内36市町村中35位となっています。

本吉町の町内総生産額を産業別（公務・その他を除く）にみると、不動産業が46億円と最も多く、次いで、製造業（27億円）、建設業（21億円）などとなっています。

また、産業別生産額の構成比（公務・その他を除く）を宮城県と比べてみると、水産業（3.8%）や建設業（9.3%）のウェイトが高い一方、卸売・小売業（4.9%）やサービス業（8.6%）のウェイトが低い状況となっています。

本吉町の産業別町内総生産額（平成16年度）

	実額（億円）		構成比（%）	
	本吉町	宮城県	本吉町	宮城県
農業	7	1,095	3.0	1.3
水産業	8	531	3.8	0.6
製造業	27	13,059	12.3	15.5
建設業	21	4,808	9.3	5.7
卸売・小売業	11	12,612	4.9	14.9
金融・保険業	7	3,764	3.1	4.5
不動産業	46	11,968	20.9	14.2
運輸・通信業	18	8,124	8.1	9.6
サービス業	19	17,734	8.6	21.0
公務・その他	58	10,712	26.0	12.7
合計	222	84,407	100.0	100.0

資料：宮城県「宮城県市町村民経済計算」

4．市町村民力

本吉町の民力(平成18年)をみると、経済社会活動の総合力を表す基本指数は38となり、県内36市町村中32位となっています。成長性を表す同増加指数(9,499)は人口や市町村内総生産の減少などを映じて31位となっています。

また、総合的な産業力を表す産業活動指数(40)は32位となっています。同増加指数(9,231)は、漁業生産量などが増加したものの、製造業事業所数やサービス業従業者数などの減少を映じて30位となっています。

本吉町の民力（平成18年）

		指　数	順　位
基本指数		38 (9,499)	32 (31)
産業活動指数		40 (9,231)	32 (30)
	農業・漁業指数	162 (9,961)	19 (22)
	製造業・建設業指数	49 (9,584)	32 (25)
	商業・サービス業指数	29 (9,536)	32 (29)

注1）（　）内は増加指数。順位は36市町村中。
2）基本指数は人口や市町村内総生産など5指標、産業活動指数は農業産出額や製造品出荷額等、卸売・小売業販売額など15指標を合成し作成。基本指数、産業活動指数は市町村合計=10,000とした万分比、増加指数は平成13年対平成18年の増加倍率（市町村平均=10,000）。

資料：当行「平成18年宮城県内市町村民力」

5．地域資源と温故知新　～新たな地域資源「天然イワガキ」～

北上山系の山々と太平洋を望むリアス式海岸に囲まれた本吉町は、ウニやアワビ、ホヤなどの水産資源に恵まれた自然豊かな水産の町として知られています。南三陸金華山国定公園の一角を形成し、環境省の快水浴場百選に選ばれている大谷海水浴場や小泉海水浴場は海水浴やサーフィンなどで賑わう県内有数のレジャースポットとなっています。

栄養豊富できれいな海に恵まれた本吉町では、7年程前に近海の水深約2メートルの海中で日本海が主な産地である「天然イワガキ」の群生が確認されました。一般的なカキはマガキと呼ばれ、養殖ものが主体で冬場が旬ですが、イワガキは希少価値が高い天然ものが主体で、サイズも大きく（10～15年もので20～30cm)、夏場が旬の食材となっています。また、濃厚でクリーミーな味わいは「海のミルク」と呼ばれ、珍重されています。

宮城県漁業協同組合大谷本吉支所では、地域資源として大きな可能性を持つ天然イワガキに着目し、資源管理と品質管理の徹底を図りながら、安全安心な「本吉ブランド」の確立に向けた取組みを積極的に展開しています。主要な情報発信基地となっている道の駅「はまなすステーション」に併設された直売センターでの販売や7月に開催される「うに祭」での観光客への直売に加え、町内の民宿などでも提供され、観光・産業振興の重要な資源となっています。一方、インターネットでの販売を拡充し、首都圏などへの販路拡大も図っています。

また、本吉町では仙台・宮城デスティネーションキャンペーンに向け、11月に津谷川（小泉川）で県内の河川では初めてとなるサケの一本釣り（調査目的）を解禁するなど更なる地域資源の活用にも力を入れています。一方、産業経済基盤を同じくする気仙沼市や南三陸町と共同で「気仙沼・本吉地方産業まつり」を開催するなど、隣接する市町と連携した圏域全体の活性化にも取組んでいます。

このように本吉町では独自の地域資源を活かした取組みが展開されており、今後の更なる活性化が期待されています。

海水浴客で賑う大谷海水浴場

夏場が旬の「天然イワガキ」

直売所が併設された道の駅
「はまなすステーション」